

アイルランド高校留学

アイルランドは「エメラルドの島」と呼ばれる、北西ヨーロッパ、イギリスの西島国です。フレンドリーで話し好き、音楽好きで陽気な人々が暮らし、素朴な街の雰囲気、美しい大自然が広がる魅力あふれる国です。ヨーロッパの中でも治安が最もよい国の一つです。イギリスに比べ費用を抑えることができ、高校留学先として人気が上がってきています。

アイルランド高校留学プログラム

アイルランドには、他国と同様に私立高校、公立高校と2種類の高校がありますが、現在留学生が就学できるのは私立高校のみとなります。

- 私立高校 ホームステイプログラム
- 私立高校 学生寮プログラム
- 私立高校 タム留学
- サマープログラム（短期留学）



アイルランドの高校について

アイルランドの高校は、ヨーロッパ圏でも教育水準が高いと言われ、また学問だけではなく実社会で通用する実践的なスキルや将来への展望をしっかりと考えることのできる教育内容となっています。

アイルランドには、他国と同様に私立高校、公立高校と2種類の高校がありますが、現在留学生が就学できるのは私立高校のみとなります。多くの私立高校は全校生徒数400～500名規模の小規模校が多く、1クラス20名前後と日本のクラスに比べ約半分の少人数制クラスを採用し、教師一人一人がしっかりと生徒を見ることができるようになっています。授業は教師のレクチャーを聞いてノートをとる受け身型ではなく、グループワークやプレゼンテーションなどが多く行われ、アウトプット力、思考力、表現力を高めるアクティブラーニングスタイルが取り入れられています。

アイルランドの高校スケジュール

アイルランドの学校は3学期制を採用しています。学校によりスケジュールは若干異なりますが、北米の高校と同じように新学期は9月から始まり、9月～12月までが1学期、1月～4月までが2学期、4月～6月までが3学期となっています。

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
Term 1			休み	Term 2		休み	TERM 3		夏休み		

アイルランドの学年制度

アイルランドの学年システムは、小学校は日本と同様で6年間となっており6歳に入学し12歳で卒業します。その後6年間の中等教育期間が設けられており、前半の3年間はJunior Cycle、後半の3年間はSenior Cycleと呼びます。Year 4はTransition Yearと呼ばれ「将来、何をしたいか」「将来、何になりたいか」など、社会に出るための準備学習する時期となり、クラスはアカデミックな科目ではなく、社会で通用する実践的な内容を多く含む科目を多く学びます。留学生はYear 4では英語をしっかりと学ぶことができ、その後のLeaving Certificate (Year 5～6)に備えることができます。Leaving Certificateの2年間は、アカデミック学習期間と捉えられており、大学入学に必要な科目、進学後に学びたい分野に関連する科目を履修します。アイルランドへ留学をするのであれば、シニアサイクル (Year 4) から入学する事になるのが一般的です。

Junior Cycle (ジュニアサイクル)			Senior Cycle (シニアサイクル)		
			Transition Year	Leaving Certificate Program	
Year 1	Year 2	Year 3	Year 4	Year 5	Year 6
12～13歳	13～14歳	14～15歳	15～16歳	16～17歳	17～18歳
日本: 中学1年に相当	日本: 中学2年に相当	日本: 中学3年に相当	日本: 高校1年に相当	日本: 高校2年に相当	日本: 高校3年に相当



アイルランドの教育制度の特徴

アイルランドの高校留学は、主にはシニアサイクルの3年間での留学になります。多くの学校では初年度にトランジションイヤー（TY）を採用し、生徒はその一年で将来設計を行います。2・3年目はリーディングサーティフィケートプログラムとしてアカデミック学習に焦点を置き、大学進学に向けての準備の2年間となります。学校によっては国際バカロレアを提供している学校もあります。

トランジションイヤー（TY）

トランジションイヤーとはアイルランドの4年生（日本の高校1年生に相当）に該当する学年で、ジュニアサイクルからシニアサイクルへ進級をするにあたり、アカデミックスキルを最大限に向上させることを目的とし、個々の研究能力、学習スキル、主題に対する分析的アプローチ、個人の人間形成や社会性の獲得に重点を置いています。この1年間は学業よりも人間形成に重きを置き、将来設計のための期間とも位置付けられています。トランジションイヤーで提供される科目は、通常の必修（コア）科目に加え、インターンシップ体験、文化体験、芸術、ボランティア活動、プロジェクトベースの活動、アイルランド文化、男女平等の重要性など、個としての資質を高める広範囲に渡る内容となっています。高校卒業時に受験するリーディング・サーティフィケート試験への橋渡しの学年であり、留学生にとっても課外活動やアクティビティ体験ができることから、英語を身に着け、学校生活へスムーズに溶け込みやすい最適な時期になります。



リーディングサーティフィケートプログラム

リーディングサーティフィケートプログラムはアイルランドの5・6年生（日本の高校2・3年生に相当）に該当する学年で、この2年間はアイルランドの高校統一試験であるリーディングサーティフィケートの準備にあてられ、アカデミックスキルを最大限に伸ばすための期間となります。世界中で広く受け入れられている試験で、アイルランド、イギリス、ヨーロッパ本土の大学、そして世界中の大学に進学するために必要な成績を生徒に提供します。履修科目は学校によって異なりますが、主要科目として国語、言語、数学、そして選択科目として科学、社会、ビジネス、テクノロジー、アートなど20科目を超える授業が提供され、主要科目、選択科目合わせて5-8科目を履修します。リーディングサーティフィケートが進学に直結するため、大学入学に必要な科目や今後学びたい分野に関連する科目を選択します。

アイルランドでの高校留学

アイルランド高校留学の魅力

- ① どっぷり英語生活：アイルランドは、まだまだ日本からの高校留学ではマイナーな留学先です。そのため日本人が少なく、またアジア人も多くはありません。留学生の多くはヨーロッパ圏から来ており、このような環境下でどっぷり英語漬けの生活を送ることができます。
- ② 私立なのに低予算：アイルランドへ高校留学は私立校にのみとなります。「私立は高い、しかもイギリス同様アイルランドも高そう」というイメージがあるかもしれませんが、他国の公立高校への留学費用とほぼ同じ費用で行ける高校も数多くあります。
- ③ 「高い教育水準」、「フレンドリーな国民性」、「治安の良さ」、「快適な住環境」がそろっており留学人気地になってもおかしくありません。

アイルランドでのサポート

アイルランドでの高校留学は、ダブリンに本部を置く公式ガーディアン組織を通じて行います。アイルランド到着後は、フレンドリーなスタッフがサポートを行います。現地スタッフは、生徒が問題なく生活を送れていること、また生徒の安全確保に努めます。手取り足取りのサポートというわけではなく、しっかりと見守るスタイルの「生徒の成長を後押しするサポート」を心がけています。24時間つながる緊急連絡先、定期的な生徒訪問、定期レポート、留学専用アクティビティ、ビザ取得サポートなどが行われます。また、生徒は質問・疑問があれば、いつでも気軽に聞くこともできます。現地にある機関だからこそ、時差なく、しっかりと生徒をサポートすることができます。サポートは英語サポートになります。また、学生寮滞在学生は、クリスマスブレイクの期間などは現地サポートがホームステイをアレンジするため、一時帰国の必要がありません。

学生寮とホームステイのコンビネーション

アイルランドのボーディングスクールには、平日は学生寮、週末はホームステイの「5デイズ・ボーディング」、隔週の週末をホームステイで過ごす「Fortnightly ボーディング」など、学生寮とホームステイを合わせた滞在法を採用する学校もあります。